

気流

2018
Kiryu
No. 42



平成30年総会場所(京都)



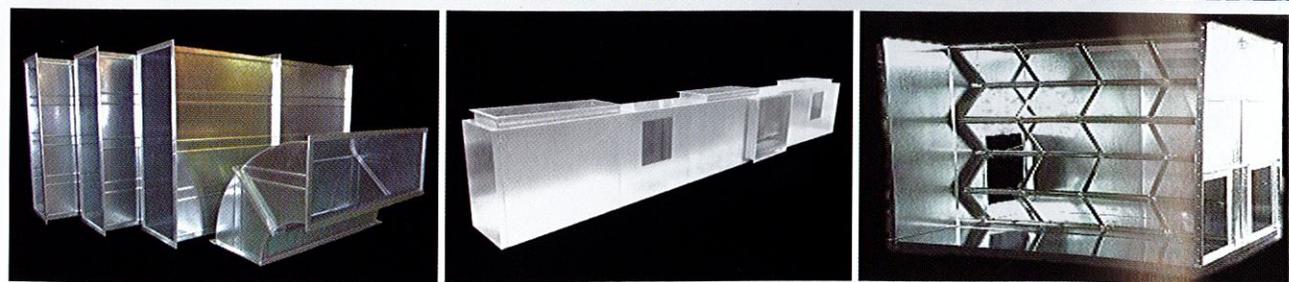
一般社団法人 全国ダクト工業団体連合会

工期短縮に軽量化ダクトシステム

●ツインリブダクト

●パネルダクト

●パネルチャンバー



TECNACS

太陽技研株式会社

http://www.tecnacs.co.jp

〒334-0013 埼玉県川口市南鳩ヶ谷3-23-3

本社 TEL. 048-288-0971 FAX. 048-288-0970
 製造事業部 TEL. 048-284-1516 FAX. 048-284-2647
 工事業部 TEL. 048-288-0971 FAX. 048-285-3312

ご挨拶一般社団法人 全国ダクト工業団体連合会 会長 田村 行雄 2

■特集1 2018 総会 in 近畿 全国から300名が集結 4
 歴史と事業を継承し 魅力ある業界 全ダ連 / 未来を描くインフラ投資を実行し 所得アップで地位向上

○祝辞
 建トレ作成へのご協力に敬意国土交通省 土地・建設産業局 建設市場整備課長 出口 陽一 10
 職能開発行政へのご協力に感謝厚生労働省 人材開発統括官付参事官(能力評価担当) 瀧原 章夫 10
 担い手の確保・育成で連携を一般社団法人日本空調衛生工事業協会 会長 長谷川 勉 11
 価格改善へのご理解に感謝新日鐵住金(株) 薄板営業部建材薄板室長 近藤 尚紀 12
 費用捻出にご理解をJFE鋼板(株) 鋼板営業部長 三嶋 秀明 13
 笑って振り返られる繁忙期に一般社団法人 全国ダクト工業団体連合会 会長 田村 行雄 14
 希望のある業界目指し志を一つに近畿ダクト工業協同組合 理事長 森 靖洋 15

■特集2 登録ダクト基幹技能者講習
 平成30年度「登録ダクト基幹技能者講習」の開催案内登録ダクト基幹技能者講習委員会事務局 16
 登録ダクト基幹技能者制度の概要 20
 登録ダクト基幹技能者 講習修了証の更新について 22
 平成29年度 登録ダクト基幹技能者講習の実施結果 26
 登録ダクト基幹技能者 / 認定者数一覧 27

MACS 2020 第14回 スマート空調衛生システム展 開催のご案内 28

仕事以外にやれる事高砂熱学工業(株) 札幌支店 技術部 技術二課長 中藪 俊幸 30
 家族に感謝新菱冷熱工業(株) 東北支社 技術1部 三浦 淳一 32
 独断的「お酒」の話(株)ヤマト 購買本部 外注管理部 林 謙策 34
 趣味の登山三機工業(株) 東京支社 営業4部長 小林 修一 38
 楽しいとき三建設備工業(株) 横浜支店 支店長 森川 浩二 40
 沖縄の自然と私(株)朝日工業社 本店 リニューアル部 部長 星野 三栄 42
 私の休日(株)大気社 大阪支社 設計積算部 勝屋 訓 44
 新しい環境の中で!!高砂熱学工業(株) 九州支店 技術部技術1課 課長 宮田 誠之 46

■北から南へブロックだより
 釣りと共に北海道ダクト工業協会 (株)岩田設備 代表取締役 岩田 則夫 48
 人生を変える「掃除の効用」福島県ダクト工業協同組合 理事長 佐戸川 政実 50
 いいがた 技のにぎわいフェスタ2018を見て新潟県ダクト工業会 会長 坂木 宏行 52
 技能実習生との日々石川県ダクト工業会 会長 福村 達哉 54
 ゴルフから学ぶ子供教育と会社経営京都府板金工業組合ダクト部 部会長 原 幹人 56
 技フェスタに参加して近畿ダクト工業協同組合 理事長 森 靖洋 58

北海道の思い出日本鐵板(株) 鋼板営業部 小黒 寛 62
 ラグビーワールドカップ JAPAN2019 #RWC2019(株)フカガワ 北関東副ブロック長 営業センター1課チーフ 高橋 正志 64
 会社と自分のIT化(株)三功工業所 常務取締役 蛭間 正信 66
 はぐくむ日本ヒルティ(株) 首都圏設備開発営業課 課長 庭野 伸吾 68

第15回定時社員総会報告/平成29年度事業報告 70
 平成30年度事業計画 76
 管・空調部門完成工事高上位20社 81
 編集後記 87



人材確保への働き方改革を考えて!!



一般社団法人全国ダクト工業団体連合会
会長 田村行雄

国内外で騒々しい事が日常的に報道され、不安な思いを強くしている国民は私だけではありません。いつの世も平穏であって欲しいと願うのも全ての国民に違いありません。平和に日常生活を送れる時が人として一番幸せを感じる事だと思っておりますが、私達の業界はとんでもない状態となっております。

元請取り引先より信頼され、満足のいく適性価格で受注契約をさせて頂き、高品質の提供によって施工貢献すべきと心得ているものの、その思いが空回りしてしまうのではないかと懸念されています。その最大の原因は職人不足が続いている事で、特に最近では職人の高齢化も急激に増加しています。高年齢者はベテランとして技術、技能も長けるものの生産性においては低下傾向にあります。これをカバーする稼ぎ頭的な職長は、一方で若年齢者へのマナーやルールを含めた技能教育も行っている状況で生産性向上への貢献に苦勞しています。

又、若年齢者の減少化は周知の事ですが、若年齢者の雇用に精力的な活動をしています。唯、雇用条件を改善して提示しなければ目を向けてくれませんし、高校、高専の就職担当の先生も相手にしてくれないのが実状です。他職異業種との比較は当然の事として、少しでも上回る額にしなければならぬ訳ですが、同時にダクト工事業とはどんな内容なのかを知ってもらう為の説明も意外に困難な事となっています。ダクト工事業に対する世間的認知度の低さをつくづく感じますし、此の認知拡大活動も強く推進しなければならない事は必須です。

一方、休日についても問われる事が非常に多くなっています。毎週の日曜日だけの休日が現在は一般的ですが、ある学校の先生は土・日連休が世

の常識ですよと言われた事から、隔週の土・日連休を提示しなければなりません。しかし土・日連休が実際に可能なのか極めて悩む処ですが、雇用条件提示としては変える事は不可能と言えます。

他方、我々の職業は請負契約が通常となっている訳ですが、受注量の平準化を念頭に営業活動を行うものの平準化受注には限界があります。納期・工期の主導権は我々には一切無いと言えますし、自社の生産施工能力をかなり超過してしまう事も多々発生する訳で、此の対応には本当に困り果てているのが実情です。職人不足の中、更に職人確保の為の職人探しに駆け回らなければなりません。此の労力は想像以上に費やす事にもなり、結果として探し当てたとしても、その職人労務単価は何倍にもなってしまう事が明白です。

こんな状況が続く限り適正価格受注だとしても適性利益確保だったとしても、此の存在は根底から崩れてしまいますので、過剰受注意識は無いものの短納期・短工期に振り回されない様に日々警戒を怠ってはいけません、非常に困難な作業である事に変わりありません。

同時に企業存続の為、元請取り引き先への施工貢献は請負業としての義務を果たす事との自覚は十二分に有するものの、納期・工期の変動が存在する限り休日出勤や深夜残業も覚悟しておかなければなりません。単純に休日出勤手当を支給すれば良いのでは無く、折角求める事の出来た若年齢者や育成中の者を離職へと向かせてしまうのではないかと危惧します。休日出勤や、長時間労働は続けば続くほど生産性は極端に低下し、安全作業の徹底とは裏腹にヒューマンエラーを発生させてしまう状況を作り出す様な事となってしまう

と考えられます。離職を生むか、事故・怪我等を招いてしまうか過剰受注や短納期・短工期には非常に大きなリスクが存在する事を忘れてはなりません。

需給のバランスとは建設業に係わる我々に存在するのか疑問に感じています。供給と需要がバランス良く適正工期に当てはめられれば無理な作業は発生しません。本ものの働き方改革とは建設業界だけで叶えられるものではありません。施主から設計事務所もゼネコン、サブコンも一体となって、末端で仕事を行う専門工事業者の職人を守り育てる事を考える必要を強く感じています。

特に大手企業、中小企業との賃金格差は雇用の大きな障害となっています。働き方改革は即ち、賃金の改善に他ならないと考えます。賃金格差の解消は建設業界への入職者を増加させる大きな手段と確信しています。唯、地方との賃金格差の解消にはその策を探し出すのがかなり困難な事と思えます。

具体的な理由の一つとして生活費の違いが存在する事なのかも知れませんが、匠の技を糧とする専門工事業に従事する職人は全国何処でも同額労務価格であって欲しいと願っています。ダクト職人が魅力ある職業に魅せる為にも現存の賃金格差を無くす事が一番の道程と思えます。将来の架け橋となる又、将来の業界を担う者達をしっかりと確保し、しっかりと育成して行く為には考えて、乗り越えなければならない難問が山積みです。しかし、持ち前の知恵と工夫を発揮し希望が叶えられるダクト業界でなければなりません。

全ダ連会員各位の益々のご活躍による成長、発展をご祈念すると共に大きなご期待を致しております。